

## 紹介

龍谷大学図書館編

### 仏教学 関係雑誌論文分類目録

かつて昭和六年、本書と同名の論文目録が同じく龍谷大学図書館より編集・刊行されたことがある。今日では殆んど入手しがたい稀書である。それから実に三〇年、仏教学乃至仏教史学の研究は長足の進歩を遂げ、その研究法、実証成果、或いは研究課題はいよいよ精緻となり多岐に亘つてきたが、この種の論文目録は研究者の待望にもかかわらず、再び編集出版されることなくすぎた。本書はかかる学界の切望に答えるべく、前書の後編とすべき編集方針のもとに、このたび公刊されたものである。

従つて本目録に収録された論文は昭和六年正月から昭和卅年十二月までの各種雑誌類に収録されたもので、総数約二万七千にのぼる。このため調査された雑誌は仏教学、仏教史学、真宗史・一般史学のものから各種記念論文集、各大学々術紀要、都道府県の調査報

告など計千百四十種に及び、その「収録雑誌一覧表」が前部に附せられている。

ところでこの膨大な数の論文を如何に分類するかは本書の利用価値を決定づけるものであり、編者の苦心もこの点にあつたと思ふ

が、本目録では昭和六年に刊行された前目録との併用の便を勘考されてか、分類方針を出来るだけこれになり、適宜新分野を設けてある。すなわち、「研究方法論」「語学」「典籍」「古文書」「地誌」「金石銘文」「教理想」「インド仏教」「南方仏教」「中国仏教」「西域仏教」「西藏・蒙古・滿洲仏教」「朝鮮仏教」「日本仏教」「欧米仏教」「仏教美術」「仏教儀礼」「仏教と現代文化」「雑」の二十部門にまず大きく分け、また別に「真宗の部」が設けられている。これらの大部門は適宜、国別、年代別・宗派別、或いは政治・経済・法制・美術などに更に細分され、各論文はこの分類分野に依じて大体発表年次順に、論文題目、筆者、雑誌名と巻号数、発刊年月があげられている。ところで本目録を利用する上での圧巻は、かかる細かい分類部門の設定もさることながら、最後に附せられた索引である。索引は一七六頁

の多きに亘り、筆者名と件名の二項に分かれ、利用者の便を考えた編集者の苦心がうかがわれ、本目録の価値を決定付けたと言つて過言ではあるまい。

本目録において論文収録期間とされた昭和六年から卅年までの間は、仏教学或いは仏教史学の進歩もさることながら、発行された雑誌の種類も莫大であつた。しかも、この間、大戦による激変期を含み、発行部数も僅少で、また廃刊となつた研究雑誌も多く、そのため先学の業積の存在すら今日普通には確かめるすべもなき場合が多かつた。この事情を考へるとき、本書がこれら諸論文を一括して学界の前にその存在を公示した意義は大きい。今日、中央の各図書館で、地方在住の研究者のために、通信によるマイクロ撮影などの便が次第に採用されつつあるが、本書の公刊はかかる制度の発達と相応するとき、学界に益するところは計りしれない。この場合、この種の目録編集には必ず附随するといえる収録論文の玉石混淆や遺漏、或いは各論文の分類に関する多少の疑問、これらの微細な玉璫は問えないであらう。最後に長期に亘つて報酬なく、編集に当られた委員諸氏の

芳に謝し、また今後は仏教図書館協会の手に移されたという昭和卅一年以降の続々編たる目録が一日も早く編集出版されることを祈つて紹介の筆を擱く。(B6版 七三八頁 別に索引収録雑誌一覧表二〇八頁 百華苑発行 定価一、七〇〇円) (藤井 学)

## 秋 田 県 史

旧版『秋田県史』の刊行されたのは、明治末、大正初年のことに属し、当時としては先進的な県史とはいえ通史としての体裁にも乏しく、研究者の不便をかこつていたところである。このたび「その後多くの新資料が発見整備され、また一方史学の発達などから補修の必要にせまられており、この際新秋田県史を刊行して、県治の沿革をたずね、文化の発達と民政の由来するところを明かにし、正しい県民の姿を総合的に把握する」ために、新『秋田県史』の刊行が始められたことは、学界にとつてもまことに喜ばしい処置として歓迎するところである。全巻完結にはなお時日をかさねばならないであろうが、現在までに刊行された分について、とりあえず紹介し

ておきたい。

**考古篇** 秋田県——出羽国といえは、すでに平安の昔より石器の発見が記録されて、石器—縄文時代研究の宝庫である。旧県史では、考古学は全く無視されていたが、大和久震平・奈良修介氏の努力によつて生れた本書によつて、秋田県考古学のすべてがまとめられることになった。個々の資料・遺跡の紹介は、五十頁に及ぶ写真版の他、写真・凸版を豊富に用いて、懇切であり、さらに歴史時代—鎌倉・室町の金石文や経塚等をも含めて、秋田県考古学のすべてを、まことに要領よく整理されている。欲をいえば内容の豊富さに比べてスペースの少なすぎることであるが、これはかかる性質のものとしてはやむを得まい。さらに、研究史に特に一章を設け、遺跡地名表と文献目録を附載することは、他に例をみない本書の特色であり、研究者に便ならしめるところが大きい。(A5判四七五頁 写真五〇頁 昭和三十五年三月刊)

**資料** 古代中世篇 は、はじめに綱文を掲げ、次に関係資料を列記する大日本史料の形式により、秋田県関係の古代中世(慶長六年まで)史料のすべてが網羅されている。記紀

以下各種記録や軍記物が、特に古い時代において中心となるのはやむを得ないが、小鹿島文書・新戸部文書・鬼柳文書・色部文書・戸沢文書・岩屋文書・秋田藩採取文書・秋田藩家蔵文書・秋田家文書等が、それぞれの日付に従つて配列され、(年末詳は巻末に一括)さらに秋田氏・小野寺氏などの系図・家譜をまとめている。秋田県関係の各種史料を博搜された今村義孝・半田市太郎氏の努力には敬服する他なく、古代・中世史の研究、また近時著しく研究の進められている秋田藩政史の研究に益するところまことに大なるものがある。(A5判八〇五頁 昭和三十六年三月刊)

**第四巻維新篇** は、ペリーの来航より廃藩置県による秋田県の誕生までの通史である。この期間だけに一冊五四八頁を宛てているのであるから、その間の政治過程について実に精細に記述されている。しかも幸い宇都宮帯刀の日記・戸村十太夫の諸記録等、中心資料がよく保存されている関係もあつて、原史料も多数引用して叙述を進められている。編者山崎真一郎氏には、すでに秋田県政史への執筆があるが、氏の造詣の深さをしのばせるに十分であり、単に地方史の域をこえて、明治